



北高夢ロード通信

第 12 号 (2023.3)

夢ロード 10 周年を迎えて

会長 波多野宏之

早いもので、夢ロード実行委員会は今年、創立 10 周年を迎えます。2011 年秋頃から少人数で話し合いを進め、設立総会を開いたのが 2013 年 8 月でした。これより先、2012 年から北高通学路での雨傘の貸出しは行われており、これを軸に、通りに面した笹尾商店の一角に〈アートの本棚〉を置き、ささやかな拠点としての出発でした。その後、豊北高校と響高校が統合して下関北高が新入生を迎えた 2018 年に〈ギャラリー夢ロード〉(旧木本陶器店)を開設。〈地域探究〉授業も始まってそのサポートも担うようになり、今日に至っています。このほか、今号でも触れている〈先輩の本棚〉や県外在住会員に向けた「ふるさと納税」の取り組みも続いています。

他方、高校の現状は、昨年 3 月の本誌第 10 号で記したように、志願者の減少が著しく、目下行われている令和 5 年度入試においても(定員 80 名のところマイナス 19 名と急減した)昨年の回復はできず昨年並みが精いっぱい。入学者は定員の半数に満たない状況が続くものと思われまます。こうしたなか、昨年 11 月、本会の呼びかけで「どうなる、どうする北高志願者減少問題：和泉屋校長先生にきく」を開催し、約 40 名の OB、地域の皆さんにご参加いただき、学校の取り組みについて話を聞き、意見交換しました。志願者増に向けて、少子化が続く中、高校なりの努力をされていることはよくわかりましたが、県立高校の統廃合、分校化が現実に行進している中、北高存続に向けての中長期的な展望が示されなかつたことは残念でなりません。

上記に加えて、22 年度には豊北図書室(豊北中学校内)の問題にも取り組みました。本誌第

11 号(2022.7)で報告しましたように、豊北図書館として認知され、コピーサービスも受けられるようになりました。ただ、広報が徹底されず、(県道から脇道に入り山を切り開いた丘の上に建てられた豊北中学校)への道路標識には学校名があるのみで公共図書館がどこにあるかまったくわからないまま。そこで下関市立中央図書館長に申し入れ、(年度内は予算がないとのことで)来年度早々にも標識を改善するとの確約を得ています。〈アートの本棚〉を利用される地元の方でこの公共図書館の存在を全くご存じない方がおられるのにも驚かざるを得ませんが、さもありなん、という気がします。丘の上にあつて、しかも、校舎の中に隠れて姿が見えない図書館。貸し出し、返却の利便性についても改善が望まれるところです。

さて、p.8 に記しましたように、2023 年度総会を(昨年度に続き)対面で開催します。事業計画・予算面では、10 周年関係企画についてご審議いただく予定です。この中では、会の 10 年の歩みを振り返る記録冊子を編集刊行し、これに課題を付して、会員の皆様に配布する予定です。会の名称、組織・活動、執行体制など全般を点検し、今後の 10 年に向かうこととします。

総会では役員改選も行われます。顔ぶれの固定化、高齢化を改善したいところですが、若年の入会者は少ないのが現状です。今回は、試みとして自薦他薦で役員候補を募っております。

(P.8 参照)

また、総会後には、豊北中学校の矢田部校長を囲む懇談会を予定しています。豊北中には、本誌で報告していますように、今年度、「はがき絵展」や「生徒作品展」で大変お世話になりました。少子化で生徒数の減る中、地域での学びを促進するため、今後、どのような協力関係が構築できるか、意見交換する予定です。

多数の総会出席を期待しております。

＜ギャラリー夢ロード＞第16回展 わたしもピカソ！はがき絵大集合展

10月11(火)～23日(日)、約500点のはがき絵が集合しました。大勢に呼びかけ、大きな模造紙にランダムに貼り張り付けた今回のような展示会は初めての試み。作品の集まり具合を心配しましたが杞憂に終わりました。6月中旬より、豊北子ども園、豊北小学校、豊北中学校、下関北高校を訪問して協力依頼。渡したはがき用紙は生徒用と家族分を含め各2枚。こうして夏休み前の授業、あるいは夏休みに家庭で作品づくりが進みました。

他方、会員からの応募が少なかったのは残念でしたが、本人だけでなく家族、知人関係にも連絡して10余の作品を送ってくれた会員も。地域の方へは、郵便局などへ募集チラシを置きましたが、はがき絵という簡単なものでも、普通の大人にとって、いざ描くとなるとなかなかハードルが高いようで、だからこそうした企画を繰り返して、気軽に作画を楽しんでもらえるようになればと思います。

作品の絵具や技法は、鉛筆、ペン、クレヨン、サインペン、水彩、墨彩、アクリル、木版画等、貼り絵、写真、それにスマホ上で描いたものなど多種多彩で、高校生や一般の方が来場した際に描いてくれたものは、その場で追加して展示しました。

一家そろって訪問されるご家族のほほえましい光景も見られ、今後ともギャラリーがこうしたなごみの場になるよう願っています。

なお、会場の一隅に、豊北小学校全校生徒が描いたうちわ約180枚を展示。地域の夏祭りで参加者に配る予定がコロナで中止となっていたもののお披露目となりました。(波多野宏之)



＜音楽とお話の夕べ＞に参加して

11月25日(金) お話し：白岡勝典 Jazz名演聴き比べ♪～ピアノトリオ篇～

曲目・曲順①ジャム・ブルース(レッド・ガーランド・トリオ) ②ワルツ・フォー・デビイ(ビル・エヴァンス・トリオ) ③枯葉(ウィントン・ケリー・トリオ) ④クレオパトラの夢(バド・パウエル・トリオ) (写真) ⑤ブルー・モンク(セロニアス・モンク・トリオ) ⑥キャラバン(ケニー・ドリュー・トリオ) ⑦朝日のようにさわやかに(ソニー・クラーク・トリオ) ⑧ゴールデン・イヤリング(レイ・ブライアント・トリオ)

録音は1954～61年。1961年生まれの私にとっては殆ど生前の楽曲。生憎私用に4曲目までしか傾聴できなかったが、いずれもオリジナルのレコードジャケットを見ながら当時の雰囲気を感じ浮かべて聞くことが。なお、③「枯葉」のような有名な曲がもう1曲あればよかった。



12月2日(金) お話し：古屋 優

モDEST・ムソルグスキー 展覧会の絵(ラヴェル編曲)

曲目・曲順①サンサーンス「動物の謝肉祭」②モDEST・ムソルグスキー「展覧会の絵」(ラヴェル編曲)③同「はげ山の一夜」(リムスキー・コルサコフ編曲)



本人は駄作と思っていたが、リストが推したことで名曲になったという。②は30分を超える組曲で一部省略されたが静と動の繰り返しが、私が10月21日に「1982年を彩ったポップスの名曲たち」で流した、ボブ・ジェームスの10枚目のアルバムの中の曲「ジェイナス」に通じるところがあり感動した。そのボブ・ジェームス1枚目のアルバムに③「はげ山の一夜」でジャズ編曲して入れていることも気になって聞いていた。(穂枝岳志)

＜ギャラリー夢ロード＞第17回展 笑顔と学び 豊北中学校生徒作品展

2022年11月22日(火)から12月4日(日)までの12日間、豊北町滝部下市中通りにある＜ギャラリー夢ロード＞で豊北中学校の生徒たちが授業の中で作成した作品の展示会を開催しました。ここで展示されたのは絵画、習字、木工作品など約160点。一部の作品は各地区公民館などで展示されていたこともあり、来場者は滝部地区の人たちが中心になりました。子や孫の作品を見に、ということで一家そろっての見学もあり、ほほえましい光景が見られました。

作品の中で何人もの人が特に熱心に見ておられたのが、2枚の大きな紙に書かれた習字の作品。枕草子の文章と中原中也の詩です。教科書に載るようなきちんとした字ではありませんが、素直な伸び伸びとした味のある字だ、との感想が聞かれました。

筆者は、習字を指導されている宇佐川先生とはたまたま知遇を得ていたので、作品返却の際他の役員ともども先生にご挨拶しました。幸いなことに、当の生徒さん二人にも励ましの言葉をかけることができ、このことも印象深い展示会でした。

(古田雅士)



出品一覽

- 習字(国語科授業) 33点
- 色紙(国語科授業) 37点
- 絵画[スケッチ](美術科授業) 52点
- 彫刻(美術科授業) 6点
- 紙粘土立体作品(美術科授業) 6点
- 木工(技術科授業) 12点
- 修学旅行記(学級活動) 12点
- 合計 158点

＜音楽とお話の夕べ＞

10月14日(金)古谷 優(北高夢ロード)
“メンデルスゾーン

ヴァイオリン協奏曲ホ短調 作品64”

普段クラシックを聴く機会は少ないので、「音楽とお話の夕べ」のクラシック鑑賞をいつも楽しみにしています。メンデルスゾーンという名前はもちろん知っていましたが、恥ずかしながらこの協奏曲に対するイメージは全くありませんでした。しかし曲が流れた瞬間、小学生か中学生時代の音楽の鑑賞時間が鮮やかに蘇ってきました。第1楽章の哀愁漂うしかも感傷的で美しい旋律を知らない人はいないと思います。それほど強烈に印象に残っています。その後何度も耳に入ってきましたが、改めて全楽章をじっくり聴いたのは初めてだと思います。音楽など芸術・文化的な教科の時間数が減ってきていますが、小中学生の純粋・多感な時期にこそ、こうした良質な音楽や芸術作品に触れさせることが大切だと改めて思った至福の時間でした。

10月21日(金) 穂枝岳志(北高夢ロード)

“1982年を彩ったポップスの名曲たち”

1982年(昭和57年)は何をしていたかな? どんな音楽を聴いていたかな? など記憶を辿りながら「ギャラリー夢ロード」へ向かいました。60年、70年代までの洋楽はよく聴いていましたが、聴くのは好きなアーティストだけと偏りがあり、いわゆるヒット曲とは縁がありませんでした。また、テレビの歌番組はほとんど見ていなかったと思います。それでどんな曲が聴けるのだろうとワクワクしていましたが、全く意表を突かれる選曲でした。スタートは中森明菜。デビューアルバム『プロローグ』から「スローモーション」、セカンドアルバムからはNHKでは歌えなかったという「少女A」など。ファンにはたまらない選曲だったと思います。さすがに中森明菜の顔は記憶にありましたが、須藤薫にいたっては名前さえ知りませんでした。1982年に思いを馳せるとともに世代の違いを痛感した1時間でした。

(文責:白岡)



【‘22 北高地域探究授業支援】 北高で協力要請会議開催

今年度もマンネリに注意ながら、自ら面白いと思える題材を提供し続けてきた。

- ① 河川、田畑の生物探求
- ② アオノリの生態観察と育成実験
- ③ 豊北の土掘り起こしと粘土づくり、さらに焼き物制作体験
- ④ 灯台ガイドボランティアで自己表現訓練

主とする上記4事業は、どこに出しても恥ずかしくない授業支援であったと思う。今年度は、新聞やテレビで活動が紹介され生徒たちには印象深い授業ではなかったか。彼らのレポートには成長のあとが見えるが、指導者の重圧は増大している。5年という時の経過は、むしろ、われわれ地域支援者の体力の限界を自覚する日々となり、補助金づけの今の事業方式は、次年度から困難だと結論づけた。

報告会で来年度のお願い



▲栗野川を題材にした授業の報告を聞く参加者

2月27日には北高で先生や講師等との報告会をもった。来年度の地域探究授業（環境・自然）への協力要請が目的である。夢ロードでマネージはしないが、それぞれで生徒のためにできることを提供してほしいとお願いした。外部講師4人も参加、生徒の人数が減るなか授業をどう続けていくか話し合った。会議では、興味あるアイデアも出され、新しい兆しは見え始めているのだが…。

（文責 藤岡）

紙芝居 「北浦蒙古襲来絵詞」

10月29日（土）の滝部公民館まつりに北高夢ロードとして参加しました。一つは過去一年の夢ロードの活動報告パネル展示、もう一つは紙芝居「北浦蒙古襲来絵詞」15分を実技発表として行いました。日本史の図録に必ず出てくる竹崎秀長が描かせた「蒙古襲来絵詞」に「北浦」を付けて、豊浦町・豊北町での蒙古襲来を紙芝居にする目論見です。史実にはできるだけ忠実に、同時に当時を生きた北浦の人々と、高麗・蒙古の人々の生活については物語にして表現します。史実については日本史専門家の畏友樋口州男氏より提供していただいた論文・書物を中心に語り、物語は田耕の「杣」（きこり）の一家族を主人公に、副主人公は弘安の役で北浦に上陸し、この地に置き去りにされた高麗軍の将校です。今回の紙芝居は文永の役が始まる前までで、既に11枚の絵になってしまいました。完成時には50枚以上の絵になるでしょう。絵にすることの大変さと、語りの内容の工夫にてこずりました。描き直したり、語りを変えたりの修練を自分に課しています。次回発表は「モンゴル帝国」です。（岡崎）

夢ロード数学教室

10月から毎週一回、下関北高の先生方と相談の上、北高生の参加を期待、滝部下市会館にて数学教室をオープンしましたが、参加生徒はゼロ。中学生に門戸を広げましたが、参加者は希少。大人の方にもと「折り紙と数学」をテーマにしましたが今のところ不発。滝部下市自治会のご厚意と励ましに答えられない状況です。この3月末で閉じる事にしました。しばらく温めて「折り紙同好会」と「豊北数学道場」として再展開を試みます。（岡崎）

＜アートの本棚＞北高展示

10月27日(木)～11月9日(水)の読書週間に北高図書室で図書展示を行いました。今年度は図書委員6名が事前に＜アートの本棚＞に来場し、約6,000冊の中から約50冊を選びました。「日本の芸術、先人の思い」「西洋の芸術～Art is interesting」「アートと過ごそう“ミュージアム”をあるく」の3つのテーマに分け、生徒たちが決めた総合タイトルは「あっ！と声出る圧倒的 art～読書で彩る北高の秋～」。展示も高校側で行ってくれました。



＜先輩の本棚＞その後

北高夢ロードでは、2017-19年の3年度にわたり、豊北高校OBの著作物を北高図書室に寄贈する仲立ちをしてきました。現在、図書館入り口近くに＜先輩の本棚＞と大きく表示した棚に並んでいます(写真)。昨年11月、会員の樋口州男さん(1964年卒)から、2冊の追加寄贈があり、夢ロード経由での寄贈は、累計で16名107点(111冊)となっています。新たに上梓された方がおられましたら、ご一報のほどよろしくお願ひします。

(kitakoyumeroad@gmail.com まで)



ほうほく 本のある場所②

西島書店

豊北町滝部の市役所豊北総合支所と県道を隔てて真正面にある西島書店。下関駅隣シーモールのくまざわ書店以北、長門市駅周辺までの間で唯一営業し続ける貴重な存在である。創業は1963年、JR滝部駅近く、繁華街だった(今でいう)中通りに面していた。当時この通りには戦前からの秋枝豊文館があったが、2軒目でも将来性があると見た。67年に現在地に移ったのは、中通りに並行して新たに整備されつつあった県道に面する立地に優位性を見出したから。現在の当主西島浩明さんは83年に豊北高校を卒業後名古屋方面でのサラリーマン生活を経て95年に帰郷した。元々祖父が店舗を持たず学校に教科書を納入する仕事をされていたというから3代にわたる書籍業。現在も教科書納入は大きな柱のひとつ。どこの過疎地もご同様にこの店でも雑誌が主体で単行本はごく僅か。文房具もあるが、近くにコンビニやホームセンターがあつて苦戦。馴染みの固定客や公共・学校図書館からの注文などで何とか経営を維持。学校に届けた見計らい本から小・中・高生が選書することもあるという。学校帰りの生徒達が群がって立ち読みをしたのは遙かな昔話。今日店頭で選べなくても注文すれば数日で届く。送料もかからずネットより便利な面も。郷土誌『和海藻』の委託販売も担う。そうなのだ、散歩の途中でちょっと立ち寄れる場所！たまには書店で本を買おう！図書館で借りるのもいいが、手元に置きたい本もある。

(波多野宏之)



＜滝部温泉の現状について＞

滝部温泉は、平成28年12月閉館後、株主総会で選出された清算人により手続きが進められてきたが、令和4年4月22日、根室市のCEFロジ株式会社に売却された。この企業は、風力発電事業を中心に全国展開しており、傘下企業が滝部地区に発電サイトを設けている。風聞によれば、温泉の建物を利用して従業員宿舎とし、農業分野で事業を展開するものと見られている。地元では、滝部温泉の再生を願う声もあったが、残念ながら夢と消えるのだろうか？

滝部温泉は県下有数の泉質を誇り、北浦地区滞在型観光交流拠点の一翼を担ってきた。その一方で地区民にも気軽に集える憩いの場として利用されてきた。しかしながら、平成22年大口債権者による競売が開始されたが落札者はなかった。競売物件となったこともあり、滝部温泉の経営は一段と厳しくなり閉館となった。その後、清算人による債務処理と新たな買い取り業者探しが続けられたが、旧本館及び新館は老朽化し、解体となると多額の資金が必要なことから進出業者は現れなかった。

滝部温泉再生に関して、下関市長は令和3年6月市議会において「(一部)今まで同様代表清算人と定期的に情報交換を行って進捗状況を共有してまいりたいと思っております。なお、今後の考え方につきましては、豊北総合支所や地元の方々や民設民営による方向性やその活用法について協議する機会を設けていければと考えています」と答弁。

豊北町は、平成12年、「角島大橋開通」以降観光交流客が増加するなか、それまで各地区にあった宿泊施設は年々減り続け、今では大手1社のほかごく少数となった。交流人口は増えても宿泊先が少ないため通過型観光地では、町の産業経済は潤わない。豊北町は、豊かな自然環境と1次産業の町。若者世代の未来を考えると、裾野が広く経済波及効果の大きい観光産業は成長産業として不可欠、そのための基盤づくりは最優先課題として捉え、強力に推進しなければならない。

滝部温泉の再生は、決して優しい課題ではない。だが町の現状、未来を担う世代のことを考えると地元が一致結束し、もっと具体的に行動を起こすべきであったと考える。合併して18年、従来型の行政依存の取り組みでは衰退あるのみ、何も前に進まない。人口減少高齢化が進むなか、地区民の方には豊北町の重要課題を自分ごととして捉えていただき、行政をも突き動かす新たな取り組みが始まることを期待したい。

令和4年2月21日、滝部地区自治会長有志による「市長・議長宛て滝部温泉再生に関する要望書」を提出。

***** (要望書に対する市議会議長の回答) *****

令和4年2月21日付けで御提出いただいた貴陳情書につきまして、令和4年3月22日開催の経済委員会において、豊北総合支所同席のもと協議を行いました。豊北総合支所からは、このたびの要望の内容は、先般行われました、豊北地区におけるまちづくり関係団体との懇談会において、市長が参加者全員と共有した将来の方向性と、概ね一致した内容であるとの見解が示されるとともに、今後策定予定の地域再生計画の中で、滝部温泉の再生も検討課題の1つとして捉え、外部の有識者も交え、前向きに取り組んでいきたいとの考えが示されています。委員からは、滝部温泉の施設に係る見通しの確認がなされたほか、少子高齢化が進む中でも、地域の衰退を食い止めるため、一刻も早い取り組みを求める発言がなされています。市議会としましては、地域のにぎわい創出は最も重要な課題であると認識しておりますので、今後ともその取り組みを注視するとともに、必要に応じて意見を述べてまいりますので、御理解をよろしくお願い申し上げます。

(永富輝久)

紹介 高殿円著『コスメの王様』

「弱冠二十一歳で起業し作り上げた永山心美堂はめきめき頭角を現し、たった七年で日本に名だたる会社として名と財を成したのである。その会社の主たる商材は『化粧品(コスメ)』。主人公永山利一「生まれは山口の滝部という聞いたこともない土地だ。」・・・

郷土の先達、中山太陽堂創業者の中山太一さんをモデルにした『産経新聞』連載小説が単行本になった。(たかどの まどか著小学館 2022 341p) 熊井清雄著『東洋の化粧王と呼ばれた中山太一兄弟伝』(豊北郷土文化友の会 2013 136p) も併せ読むことをお勧めしたい。

<会員だより>

知命を過ぎて思うこと

中学生の頃、「人はなぜ生きるのか？」とても思い悩んだことがあります。結果、『なんで生まれたのかわからんけど、どうせこの世に生まれてきたんやったら、楽しく生きたらええやん。』というフレーズを何かで見聞きして、とても腑に落ちました。以来、「楽しく、豊かに、幸せに！」をモットーとしています。こんな私の人生の支えとなっているのは、周りの人はもちろんのこと、本の存在が大いにあります。

私は約4年前に東京から父の郷里である角島に移住、先にUターンしていた両親と20年ぶりに暮らしています。これまで祖母が存命の頃や法事でしか訪れたことがなく、この土地について殆ど何も知らなかったのですが、実際に生活することで様々な課題が見えてきました。そのひとつ、阿部幸大@korpentineさんがSNSでつぶやかれていた、『教養のない田舎の家庭に生まれると、たとえ裕福でも教育には到達できない。教育の重要性じたいが不可視だから。文化資本の格差は「気付くことさえできない」という点で深刻。』という現状は、どこの地域でも起こりうることなだと痛感しました。

今現在、私は角島公民館の主事を務めており、少しでもこのような環境が改善できればとの思いで、「図書まつり」と題して下関市内の図書館にある蔵書を借り受け、貸し出す活動を不定期に行っています。50～100冊の選書は、ご利用者の好みやリクエストを加味しながらも、できるだけ幅広いジャンルから選ぶ工夫をしています。利用してくださっ

た方から「自分では選ばない本」、「面白かった」などという声が聞けた時には、心の中でガッツポーズをしています。

かつて職場の人間関係に悩んでいた際、書店で目に留まった1冊の本が私に大きな転機をもたらしてくれたこともあります。また、幾度となく感涙に咽ぶこともあれば興奮したりと、本から得られる素晴らしい体験を皆さまと共有できたらと思います。

人生100年、120年時代といわれている最中、私はちょうど折り返し地点に立っています。この先、私はどんなゴールを切りたいのか？これまで、年を重ねれば、経験が増えれば、誰もが皆、偉人・賢人と呼ばれる人物になっていくものだと漠然と思っていました。しかし、近ごろでは連れ合いを殺めた、スーパーで万引きをしたなど、高齢者による犯罪がニュースで頻りに流れ、「老害」という言葉も生まれており、残念ながらそうとは限らない様子。

豊かな人生を送りたいと願ったとき、「教養」や「リベラルアーツ」は、それを切り拓くために必要不可欠ではないでしょうか。そして本は、時代・地域・世代・人種などを超えて叡知を授けてくれる、お手軽かつ最強のツール。これを活用しない手はありません。ただ地域（地方）格差を嘆くだけでなく、僅かでも同じ思いの人たちと一緒に変えていけたなら……。今後も様々なかたちで本を通じて活動・交流の輪を広げていきたいと考えています。

(溝口あや)



2023年度 夢ロード総会開催のご案内

北高夢ロード実行委員会総会を下記の要領で開催いたします。今回は、10周年記念行事を含む事業計画についてのご審議や役員改選も行います。コロナ対策を講じながら進めたいと思いますので、**4月17日(月)必着**で同封の欠はがきをご返信の上、ご参加のほど宜しくお願いたします。

記

日時:2023年4月22日(土)

会場:滝部公民館(太陽館)

14:00~15:00 総会

15:00~16:00 懇談会

地域と学び~豊北中学校矢田部校長を囲んで

市民活動センター登録団体紹介展示

しものせき市民活動センターの登録団体活動紹介パネル展が2022年9月29日(木)~10月9日(日)シーモール下関で、その後2023年1月10日(火)~25日(水)市役所で開催され、本会も参加しました。

北高へふるさと納税で応援を

【ふるさと納税】システムを利用、下関北高の教育活動充実に支援しましょう。詳細は県外在住会員宛今号同封の『山口県ふるさと納税の募集』の《払い込み取扱票》通信欄に下関北高校宛を記入、振込手続後、確定申告又は特例申請で税控除されます。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10700/furusato/top.html>

問合せ先:北高夢ロード実行委員会 城石郁裕

E-mail : japolo1329ik@gmail.com

役員の方の自薦他薦をお願いします

左記のように、2023年度総会では役員の方の改選を行います。自薦他薦で多くの方の参画を期待しております。総会準備の都合上、ご連絡・お問い合わせは4月5日(水)までに下記宛ご連絡願います。

kitakoyumeroad@gmail.com または

〒759-5511 山口県下関市豊北町滝部 218-5
北高夢ロード実行委員会事務局宛

短信

■豊北歴史民俗資料館では下記の展示会を開催中 ともに2月7日(火)~5月7日(日)

写真展 彩り豊かな豊北の景色

(佐々木猛氏撮影)佐々木氏は特牛在住
パネル展 「旧滝部小学校」を見て回ろう

■豊北生涯学習センターの展示会

3月10日(金)~5月7日(日)

中山淳写真展~季のころ 17 ~

中山氏は滝部在住

会費納入のお願い

2022年度会費を未納の方は、同封の振替用紙でお振り込み願います。正会員:2,000円

(新年度会費については、4月以降にご案内します。)

郵便振替

口座記号:01350-1 口座番号:106942

加入者名:北高夢ロード実行委員会

北高夢ロード通信 第12号(年2回刊)

2023年3月20日発行

編集:会報編集委員会(城石・古田・村上・戸田)

発行:北高夢ロード実行委員会

〒759-5511 山口県下関市豊北町滝部 218-5

Tel:083-782-0084

ホームページ: <http://yumeroad.org>

Email: kitakoyumeroad@gmail.com